



オジシャン達の奮闘記 O-SHAN (オーシャン) 通信



シヤン州北部地域における麻薬撲滅に向けた農村開発プロジェクト

Project for Eradication of Opium Poppy Cultivation and Rural Development in the Northern Part of Shan State

第5号 2016年7月

編集人: 今村 甲

巻頭言

ラショーはすっかり雨季の様相を示し、ほぼ毎日のように雨が降ります。ラショーも一歩離れればのどかなアジア的農村風景が広がり、周囲の農地でも水田では田植えの準備で水が張られ、畑ではトウモロコシが大きく生長してきました。

こうしたノンビリした風景の奥の山間地では、未だに不安定な治安状況が続いています。戦闘ばかりフォーカスされがちですが、山間住民の生活・経済に対する負の影響は、ケシ撲滅時に匹敵するぐらいではないかと想像しています。ミャンマー新政権では、少数民族武装組織との停戦・和平を優先課題に据え、8月には停戦会議が開催予定としてますが、そこで北シヤン州の武装組織との交渉に進展があればと願っています。

今は安全第一でプロジェクトを実施し、ラショー周辺で行う活動モデル作り、カウンターパートの能力アップを地道に行いながら、次なる展開に向けて国境省、農畜灌漑省とともに準備を進めていきたいと思っています。

プロジェクトもまもなく後半にさしかかるところではありますが、ケシ代替開発プロジェクトは「刻々と変化する社会・政治状況への柔軟な対応」が求められます。その点において、五人のオッサンは、JICA 本部と事務所の若者担当者(I氏、S氏)のパワフルなサポートを得て、表現は適切ではありませんが「ノリクラリ」と手を変え、品を変えて対応していると自負しています。

当初五人の“オッサン”で開始した O-SHAN(おじしゃん)ですが、その一人、福山専門家(農村開発)が任期満了で帰国しました。まもなく着任予定の後任はオッサンではなさそうです。“O-SHAN プラスワン”で新たに頑張っていきたいと思っています。(吉)

1. 活動ハイライト/出来事

2月8日	Joint Coordinating Committee (JCC) Core Member 会議(ネピドー)
2月10-17日	農業開発部門第3国研修(ラオス)
2月21-23日	中央乾燥地における小規模養殖普及による住民の生計向上 Project 視察
2月22-3月31日	社会経済調査(ナンモン)
4月2-3日	民間連携(ハトムギ)調査団
4月21日	福山誠専門家帰国前報告(ネピドー)
4月21日	農場施設整備に係る引受証明書署名(国境省、農業研究局局長)
4月23日	福山誠専門家帰国
5月8日	第5回 Project Implementing Committee (PIC)/Taskforce 会議(ラショー)
5月12-14日	民間連携(ハトムギ)調査団
6月7日	第3回 JCC 会議(ネピドー)
6月26-27日	民間連携(ハトムギ)調査団
6月26日-7月9日	畜産分野専門員視察
7月3-7日	生計向上部門後任現場視察

1. 全体活動

(1) JCC Core Member 会議開催



2月8日、JCC コアメンバー会議の開催。直接の C/P 国境省(PBANRD)、農業局(DOA)、農業研究局(DAR))の代表者へ今後のプロジェクトの方針とフレームワークの変更点を説明・協議後、国境省とプロジェクトで合意し、署名を取り付けました。(今)

(2) 第5回プロジェクト実施委員会 (PIC)及び Taskforce 会議開催



5月8日に、現場及びラショーレベルの関係者を招集して、第5回PIC/Taskforce 会議を開催しました。2月8日に開催されました JCC Core Member 会議の合意点(今後のプロジェクトの方針とフレームワークの変更点)を説明し、引き続き開催されました Taskforce 会議にて今後の活動等が検討されました。(今)

(3) 第3回合同調整委員会(JCC)会議開催



6月7日ネピド(Grand Amara Hotel)にて第3回JCC会議が開催されました。JCCにはカウンターパートである国境省、農業畜産灌漑省の他、シヤン州政府大臣(農業・灌漑担当)、内務省、商業省、国家計画経済開発省等からの参加者を得て、2015年度の活動報告、2016年度の活動計画等を説明し、了解を得ました。JICA事務所からは三條明仁次長、瀬戸典子所員らが参加され、次長からスピーチをいただきました。(今)

(4) 国際麻薬撲滅デー参加



6月26日、全国的に開催されました国際麻薬撲滅デーに今年もラショーにて参加し、活動パネル展示やPR Goods等を配布し、プロジェクト活動を紹介しました。パネル展示では、出席されていた北東司令官らに、吉田チーフらが活動を説明する機会となりました(今)

(5) 畜産分野専門協力員及び生計向上部門後任専門家ラショー視察



要田正治畜産分野専門協力員(6月26日～7月9日)及び中村直子生計向上部門後任専門家(7月3日～7日)が、ラショーにて現場視察をされました。モデル村にて展開される生計向上分野、特に畜産関係に係る調査を実施し、今後の活動計画に役立てる予定です。(今)

2. 農業開発部門

(1) 主な活動のあらまし

農業開発部門では、活動の柱のひとつとしてカウンターパートの普及員研修を毎月続けてきました。2月にはその一環として隣国ラオスへの Study tour が行われました。DAR のチャウメ農場およびナンモン農場では、専門家による野菜栽培試験が続けられ、年度末には両農場の施設整備工事が竣工しました。新年度に入り、本年度の活動方向を決めるタスクフォース会議が5月にラショーで開催されました。(片、藤)

(2) ラオスへの Study tour

JICA ラオス事務所および JICA が実施中の Lao Organic Agriculture Promotion Project (LOAPP) のご協力により、ラオスの農業でミャンマーより進んでいる部門の視察と関係者の技術交換を目的に Study tour を実施しました。参加者はカウンターパートおよび DOA のスタッフで合計7名、日本人専門家2名と Field Coordinator 1名が参加しました。

一行はまずビエンチャンで LOAPP を訪問し、ラオスの有機農業について学びました。ラオスの有機農業は政府によって「新しい農業」というステータスが与えられ着実に発展していること、LOAPP の役割が有機農業にかかわる戦略策定、技術強化および、有機農産物の基準についてであることなどを実例によって理解しました。またミャンマー側参加者からミャンマーの有機農業の実態について説明と質疑を行いました。その後参加者はビエンチャン郊外の有機生産農家グループ、さらに市内の販売場所を訪問、実際の活動を見学しました。



有機農家グループの代表からの説明



市内の有機農産物販売所を見学

翌日はラオス農林省農業普及協同組合同とビエンチャン特別市農林業局を訪問し、農業普及システム、農家組織化の意見交換を行いました。さらに組織化の成功例として有機生産農家グループを訪問しました。農家からはマーケティングの難しさが強調されました。



農業普及協同組合同局でのブリーフィング



農民組織化についての農家聞き取り

一行は南部のパクセーに移動し、チャンパサック県農林業局を訪問しました。プリーフィングの後、2日間で野菜市場、野菜生産者、コーヒー生産者と研究センター、工商務局などを訪問し、特産の高原野菜のタイへの輸出、契約栽培などについて見学、聞き取りを行いました。ミャンマーの農業の方が一見、ラオス農業より進んでいるように見えますが、一行はミャンマーにないラオス農業の発展過程を実感することができました。(片)



チャンパサック工商務局での聞き取り



ポロベン高原のキャベツ栽培

(3)ハトムギ栽培と民間協力

ハトムギは北シャン地域で昔から栽培されてきた作物で、ラショーの市場でも祭事の食用材料や民間医薬品などとして販売されています。マンダレーやムセの中国系の住民にも需要をあり、もちろん、中国本土のマーケットも期待できる作物です。

昨年、日本の製薬会社である新日本製薬のミャンマーでのハトムギ生産拡大、適正加工・流通構築の活動に対して、協力・アドバイスをに行ってきました。昨年度のDARナンモン農場とDOAナリ農場での日本品種による試験栽培により、地域での基本的な生産ポテンシャルが確認されたので、今年度は農場での試験栽培の拡大に加えて、農家圃場での試験栽培も開始することにしました。農家圃場試験では、今のところモデル村の5農家が協力してくれる予定です。また、この活動における情報収集を通じて、ラショーで20年以上栽培されている有望な地方品種も見つかりました。一方で、収穫後の作業や管理などの課題も慎重に検討していかなくてはなりません。

今回の連携では、プロジェクトの試験・普及活動などを通じた情報交換などお互いの得意分野を上手に利用した協力を積み重ね、将来は民間連携のモデルとなるような活動を目指しています。(藤)



ラショーを訪問し農場・農家視察や情報交換を行う製薬会社。(ナンモン農場)

(4)モデル村での活動

今年度から農業部門も生計向上部門に続いて、モデル村でのモデルづくり活動を開始することになりました。まずはモデル村で行われた社会経済調査の結果を基本として、農業の問題に絞った簡易調査を始めました。この結果をもとに、収入創出のモデルづくりとなる活動を生計向上部門と協力しな

がら開始します。

既に、昨年の農場での試験栽培の結果を活かして、小規模野菜栽培活動を開始しました。この活動を通して、女性や老人などの労力を利用して、苗を共同でつくるなど野菜栽培の基本を習得すること、家庭菜園での野菜の栽培種類を増やすことで栄養改善にも貢献できることを考えています。また、将来的に市場への共同出荷や販売を見据えています。(藤)



共同での野菜苗づくり(ペトツ村/モデル村)

(5)コムギの試作

DAR チャウメ農場産のコムギ種子をプロジェクトが村に送り、C/P の普及員さんの指導により試作を行いました。これは DAR からリリースされた品種のうち、特定の地域に最適な品種を選ぶためです。供試品種は3品種で10月に種まきが行われました。写真は収穫前の試作圃場の様子です。(片)



(6)ラショーでの普及員研修

【2015年度】3月に2015年度最後の研修コースがラショーで実施されました。昨年6月からほぼ毎月順調に普及員研修が実施されてきました。各回とも様々なトピックについての講義、ワークショップ、実習が行われました。上記のラオスへの Study tour も普及員研修の一環として企画、実施されました。当初計画では全10回を予定していましたが2016年1月は会議準備のため未実施でした。しかし参加者の協力により合計日数31日の研修を実施できました。参加した普及員さんは、ラショーに近い職員でもバスで片道3時間程度、一番離れている場所からは片道1日以上かけてラショーに来ていました。研修の時間+往復の時間で毎月大変な負担だったことと思います。参加者の皆さん、ご苦労様でした！



DOA 事務所での意見交換



Naungmon 農場での機材取り扱い説明

なお1年間で研修を実施した内訳は、普及(4.5日)、マーケティング(2.25日)、土壌管理(1.75日)、病虫害防除(1日)、普通作物(3.5日)、野菜(6.25日)、果樹(3日)、茶(0.5日)、毎月の月例報告とラップアップミーティング(2.5日)、その他(5.75日)でした。(片)

【2016 年度】

本年度第1回目の普及研修が6月21～23日、ラショーで開催されました。去年度は、研修内容がどちらかという技術系でしたので、本年度は事業案件の立案や管理に焦点を当てていくことになりました。それに基づき、第1回研修はProject Cycle Management (PCM)研修。農業局のTownship Officer および国境省のカウンターパートが対象で、講師はヤンゴンのNGO、Capacity Building Initiative のベテラン・スタッフに依頼しました。日本でもおなじみのPCM研修、参加者は全員初心者でしたが3日間の演習を楽しみました。演習の中では実際に自分が活動するさいの問題分析なども含まれていて、第2回以降の研修コースでそれらをどのように展開していくかが重要となります。(片)



開講時のオリエンテーション



グループワークでだんだん真剣になっていく



できあがったPDMを背に記念写真



閉講式の様子。3日間よく頑張りました

(7) 土壌分析結果

昨年度の12月にプロジェクトの活動場所である4つの農場(DAR ナンモン、チャウメ農場、DOA クックイ代替作物、ナリ農場)と7つの対象 V/T(ナムサン、クックイ、ムセ、ラオカイ、コンジャン)地域より27検体のpH, EC, P, K, Ca, Mg, CECについて土壌診断分析が行われ、結果については、3月の普及員研修で解説・講習を行いました。全体的にPなどの要素全般とCEC(肥料を保持する力の目安)が低い値を示していることがわかりました。

この結果から対象地域の土壌の特徴が明らかになりました。施肥設計や土つくりの指導や試験設計に生かしていきたいと考えています。例えば、肥料を保持する力を高める堆肥や資材の投入指導、追肥の量を減らし、回数を増やした場合の効果の試験実施などです。また、モデル村での対象地の分析など引き続き分析を続けて、基本データを積み上げていく予定です。(藤)



土壌採取方法についての研修(ナンモン農場)

(8) 農場施設整備

昨年から進められてきた、DAR ナンモン、チャウメ農場の井戸やポンプ小屋など給水設備、ワークショップの建設といった施設整備については、3月末に工事が終了し、4月にDARに引き渡しを行いました。同時に進められた実験機材の納入も行われ、気象観測装置は1月に、チャウメ、クッカイ代替作物、ナリ農場とDOA ナムサントウンシップに搬入し、穀類水分計、電子はかりなどの実験機材は3月に、取扱説明講習を行なった後に各農場へ納入されました。これで農場の基本的な機能が向上しましたので、ますます試験活動に注力していきます。また、気象データなど実験機材を利用して、データを地道に記録・保存していく仕組みづくりについても、C/Pである農場長を中心に構築していきたいと考えています。(藤)



新設された屋根付きワークショップ(左:チャウメ農場、右:ナンモン農場)

(9) タスクフォース会議

農業開発部門の第5回タスクフォース会議が5月18日に行われました。それに先立って行われたPIC会議で了承された今年度の活動計画に基づき、活動詳細についての議論が交わされました。今回はDARとDOAの農場の活動計画について、普及職員のキャパシティビルディングのための研修計画、研修に基づく普及活動、モニタリングについて議論しました。(片)



3. 生計向上部門

今期の主な活動項目は、①養豚(2ヶ村)、②小規模養殖(1ヶ村)、③果実加工・マーケティング(1ヶ村)、④縫製(2ヶ村)、⑤種子銀行(4ヶ村)、⑥薬物対策(1ヶ村)でした。

「養豚」は、前号でお伝えしましたが、豚銀行というリボルビングシステムで養豚を振興していくものです。すでに、計5ヶ村で活動が進んでいます。



「小規模養殖」は、当地の水産局と連携して進めており、マンダレーを拠点とする JICA の水産プロジェクト(中央乾燥地における小規模養殖普及による住民の生計向上プロジェクト)の専門家及びカウンターパートの方々からも技術的な支援を受けました。現在のところ、3世帯が候補となっており、すでに1世帯が活動を開始しました。



「果実加工・マーケティング」は、紆余曲折がありました。最終的にタマリンドの果実を簡易加工し、袋詰めにして販売することとなり、プロジェクトからはマーケティング戦略・戦術の立案、加工等に係る技術的アドバイス(民間企業との連携含む)などの支援を行いました。現在、ランショーと村近郊の市場の2ヶ所で試験販売中です。



「縫製」は、国境省が管轄する職業訓練校の基礎コース修了者6名のうち、2名が昨年12月中旬か

ら開始された上級コースで研修を受けていましたが、3月末に無事修了しました。基礎コースのみの修了者を含めて、数名がすでに縫製関連のビジネスに携わっています。



「種子銀行」も、前号にて内容を紹介しましたが、各村での参加者の組織化及びリボルビングファンドの規則の開発等を支援し、トウモロコシ栽培用(1エーカー分)の種子、肥料の供与も完了しました。

最後に、仰々しいタイトルの「薬物対策」ですが、内容は元薬物中毒者の社会復帰を促進するための生計向上関連の支援です。養豚の活動に組み入れる形で活動を調整し、3名が養豚を開始しました。医療面でのリハビリを支援するローカル NGO とも連携して活動を進めています。国内でも珍しい取り組みですが、とにかく息の長い支援が求められています。

上記の6つの活動に「飼料作物栽培」を加えると、これまで7つの活動項目に係るモデル開発を行ってきたこととなりますが、今後はまず、各モデルを充実させ、確実に成功に導くためのモニタリングと追加の技術支援等が重要となります。更に、有望な活動モデル(新規活動)の導入も課題です。(福)



2. 訪問者

日程	訪問者	訪問内容
2月21-23日	高橋信吾チーフアドバイザー 古澤亜吐夢専門家等	中央乾燥地における小規模養殖普及による住民の生計向上プロジェクト(マンダレー)
4月2-3日	新日本製薬	民間連携(ハトムギ)調査団
5月12-14日	新日本製薬	民間連携(ハトムギ)調査団
6月10-12日	ADPEA(日本NGO)	民間連携(有機農法)実施団
6月26-27日	新日本製薬	民間連携(ハトムギ)調査団
6月26-7月9日	要田正治専門員	畜産分野視察
7月3-7日	中村直子専門家(予定者)	生計向上部門・畜産分野視察

3. ラシヨーにて

プロジェクト事務所内には、以下のような植物が植えてあります。それと、これまで桜と信じていた木は、今年実がなり、アーモンドの木と分かりました。専門家によると、葉っぱが全然桜とは違う、と一喝いただきました。(今)



アーモンド



釈迦頭



マンゴー



ライチ



ネピアグラス



コンニャク



クルミ



コーヒー

マンダレーとネピドー間の有料道路

その1 途中でUターンができます。



その2 どこでもバイクは走れます。



その3 家畜も自由です。



その4 速度計があるんです。



専門家の異動



農村開発専門家でプロジェクト開始当初から活躍された福山 誠さんが4月21日任期満了で離任されました。お疲れ様でした。後任専門家は、紅一点となる中村直子氏が着任予定です。

【編集後記】

- (吉) ラショーでは蚊が大量発生しています。ラショーの事務所、住居は完全防備が不可能で、毎日数十箇所の攻撃を受けつつ蚊と戦っています。ラショーも比較的住みやすいところと言われますが、気を抜くと色んな病気にかかりそうです。
- (片) ラショーの市場でよく買うもの：豆腐、コンニャク、ゆでインゲン豆、醤油炊きの豚肉、オクラ、生シイタケ…。食材は豊富だけど料理がイマイチ…。
- (福) 約2年間の契約期間を終え、4月末に離任致しました。制約要因の多いプロジェクトですが、関係者が一丸となってプロジェクトを成功に導いていかれることを信じております。また、新政権のもと、この国が今後どのように発展していくのか直接目にするのができないのは残念ですが、少しでも国民が望む方向に進んでいくことを祈念しております。従事期間中に皆様から頂いたご支援・ご指導に厚く感謝申し上げますと共に、数ヶ月後に赴任予定の私の後任にも引き続き皆様方のサポートをお願いして、挨拶とさせていただきます。
- (藤) 最近早朝に汗びっしょりで目が覚める。気候が暑くなってきたからか、水分(麦汁)の取りすぎか、冬用の毛布を使用しているからか(多分これが正解)、はたまた更年期障害なのか！
- (今) ヤンゴンから約 1,000 km離れた辺境地ラショーも住めば都ですが、無いものだらけです。覚悟の上での赴任ですが、せめて、衛生管理された生鮮食料品や要冷蔵品(ハム、ソーセージ、バター等)、餃子やサーモンの切り身等の冷凍食品、日本製の調味料等が購入できる小型のスーパーが欲しいところです。プノンペンでの3年間の都会生活に慣れてしまっている身体は、田舎町ラショーの生活に慣れるのでしょうか？(←何をいまさら)。協力隊員の生活環境にはピッタリです。



ついにラショーにもあの店が? 安心してください、表示と中身は一致していません。(藤)